大草谷津田いきものの里自然観察会

タネの旅立ち

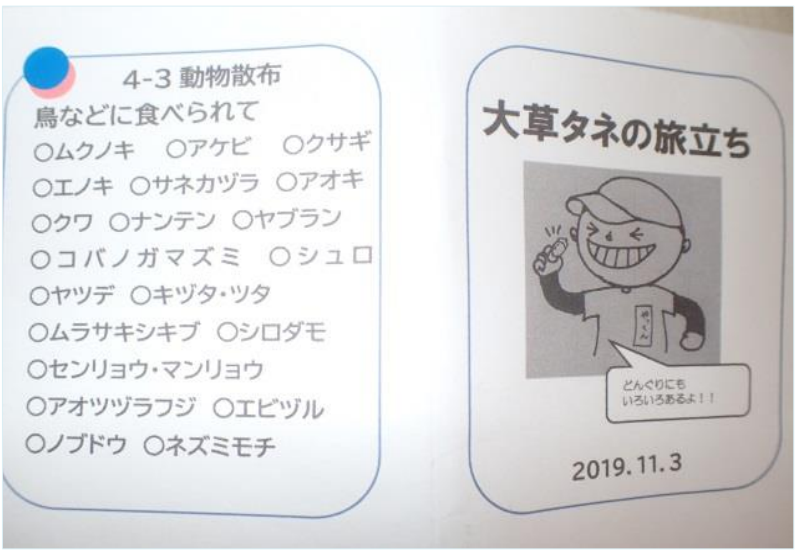
遠藤登志子（千葉市）

日　時：2019 年 11 月 3 日日 10：30～12：00　天候：晴れ
参加者：９名（大人８名、子ども１名）
担当指導員：松本美千代、遠藤登志子

大災害がたて続けに襲ってきたこの秋は、大草でも甚大な被害がもたらされ、観察会も９月１日以来、２か月ぶりの再開となったが、倒木や枝折れの景観、ことに幹の途中から削がれたような折れ方をしている多くのサンブスギは、暗かった林を明るく変化させたものの、参加者を棒立ちにさせる情景だった。

タネの旅立ちには、いろいろな工夫やしかけのおもしろさがあることをできるだけ紹介するようにして、順路に沿って観察を始めた。

駐車場脇のイヌシデの果序を飛ばしてみた。タンポポの綿毛を吹き、カタバミの実をつつき、ムクの実を試食。ノブドウ・アオツヅラフジと鳥の話をした後、コナラ・シラカシのドングリがたくさん落ちているところを見る。

サワラのタネはどこにあるのか掌の上で振ってみると、小さな翼付きのタネがこぼれてきた。チャノキ・アオキ・ヤツデ・ツタ・ナンテンの育つ場所で鳥との関係を考えてもらう。芽生えたばかりのアオキやヤツデもみつけた。ヤツシロランの微細なタネも飛ばしてみる。ミズヒキ・ケチヂミザサ・イノコヅチがある所で長靴の紐についたタネを観察した。オオバコが道に連なって生えている様子も見る。道にクヌギ・スダジイ・コナラのどんぐりが落ちていた。コナラは、根を出しているものがあったので、どんぐりのどちら側から根をだすのか、芽はいつ出るのかを話した。シロダモの赤い実が鳥の嘴につつかれた痕を残していくつか落ちていた。オオモミジの翼果を飛ばし、回転具合を観察して楽しんだ。

終わりに 散布方法を４つに分類（１風　２自力で弾ける　３水　４動物散布　①くっつき虫　②貯食　③鳥）、
透明袋に入れた実やタネの袋を、散布のしかけを考えながら話しあいながら仕分けした。
右は、大草にあるタネの散布方法をわかりやすく分類したミニブック 今回も好評でした。
（作成：松本さん）